



ENEOS

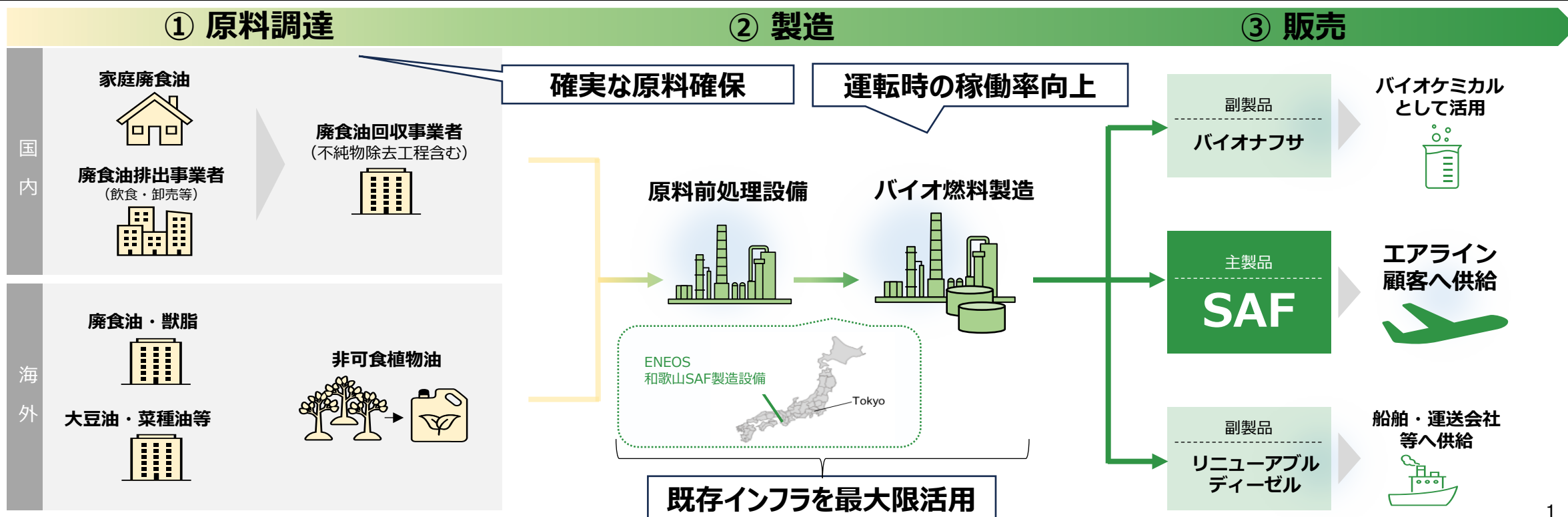
国産SAFの社会実装の具体化に向けて

ENEOS株式会社

2026年8月28日
E N E O S 株式会社

SAFのサプライチェーン最適化に向けた取り組み

- インフレ、円安、人手不足等によるマクロ環境のコストアップ圧力が継続する中、サプライチェーンの各段階における最適化を下記①～③の通り実施。今後は各段階を適切につなぎ込み、サプライチェーン全体の最適化を進めている
- ① 原料：**コストの大半を占める廃棄系原料を確保の上、多様化させることによる競争力向上**を検討・実施
 - ② 製造：**和歌山製油所跡地にて既存インフラを最大限活用したSAFプラント建設を計画**、FIDに向けた最終検討の段階
 - ③ 販売：FIDに向けては、**安定的なSAF需要・引取が重要**。プラント競争力の生命線である**稼働率の維持・確保が安定操業およびSAF単価低減（単位製品当たりの固定費削減・OPEX削減等）に必須**
 - ④ 全体：今後はトレーサビリティの確保、ロジ効率化、B&C整備など、サプライチェーン全体の最適化を推進



規制・支援制度の柔軟かつ確実な実装

- CAPEX・OPEX支援、規制的措置（供給義務化）、値差支援など、必要な制度に関する方針を提示いただいた
 - ✓ 一方、FIDに向けて、**各種施策の確実な法制化および着実な運用が可能な制度化**といった具体的な落とし込みをしていただくことが極めて重要
- 空港インセンティブについては、**貨物からの早期な徴収・全空港への速やかな展開・ボランタリーSAFへの着実な支援**など、**さらなる詳細議論を進めていただきたい**
- 競争力ある国産SAFの実装に必須となる国内版B&Cは、実装に向けた政府主導にて詳細検討いただきたい
 - ✓ ENEOSは供給最適化に向け、国土交通省による「SAF導入支援実証事業」の一環として、環境価値移転実証の取り組みを実施（次頁以降参照）

CAPEX/OPEX支援

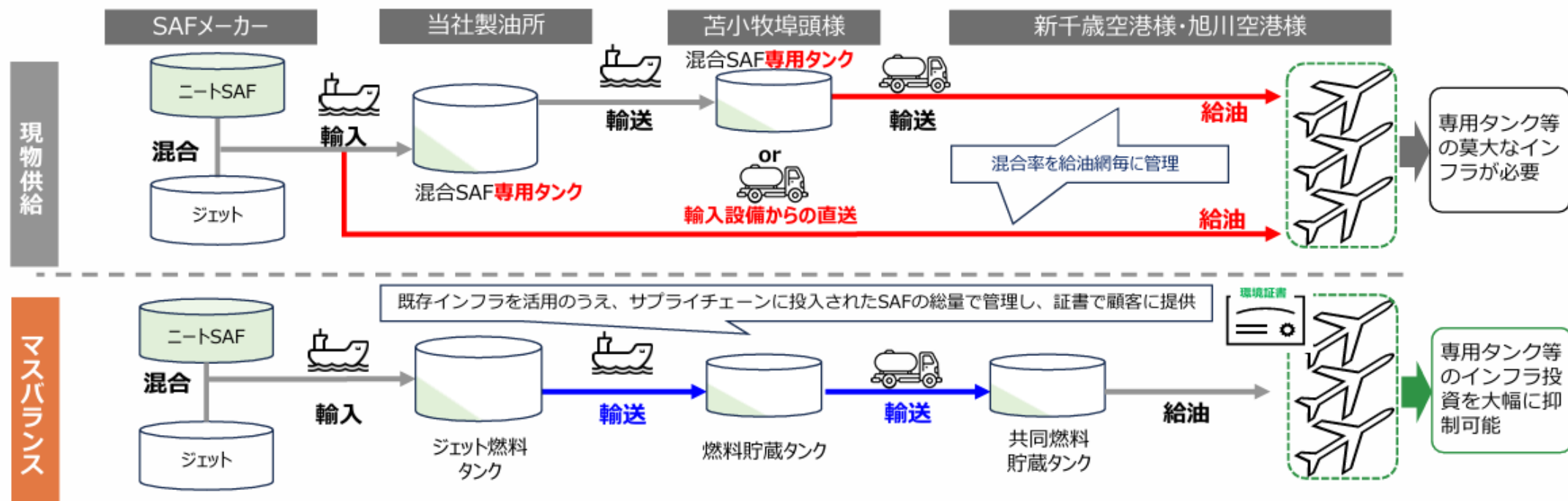
- グリーンイノベーション基金を用いたSAFの製造技術開発（実施中）
- 20兆円規模のGX経済移行債を活用した、大規模なSAF製造設備の構築に係る設備投資支援（約3,400億円規模、実施中）
- 戦略分野国内生産促進税制
SAFの国内生産・販売量に応じて、1L当たり最大30円の税額控除
（制度措置済み、**柔軟な運用を検討いただきたい**）

規制・制度

- エネルギー供給構造高度化法における、2030~34年のSAFの供給目標量(案)を設定
（SAF官民協議会で明示済み）
- 航空法における航空脱炭素化推進基本方針に基づき申請する脱炭素化推進計画において、2030年のSAFの利用目標量を設定（措置済み）
- SAF利用者へのインセンティブ制度（空港インセンティブ制度）の方向性を明示
（SAF官民協議会で明示済み、**具体化いただきたい**）

5. 2024年度の実証－マスバランス方式－

- ・ニートSAFとJET（化石）燃料の混合率を正確に管理するには製油所や空港の専用タンクや船舶等を整備する必要あり（≒莫大なインフラコスト）
- ・燃料価値と切り離せるといふ環境価値の特徴を生かし、製造設備から顧客までの物理的なサプライチェーン内で、**「SAFの総投入量＝環境価値の総量」とし企業毎に割り当てるマスバランス方式**で、インフラ投資を抑えつつ、環境価値を正確に顧客に届ける実証を実施

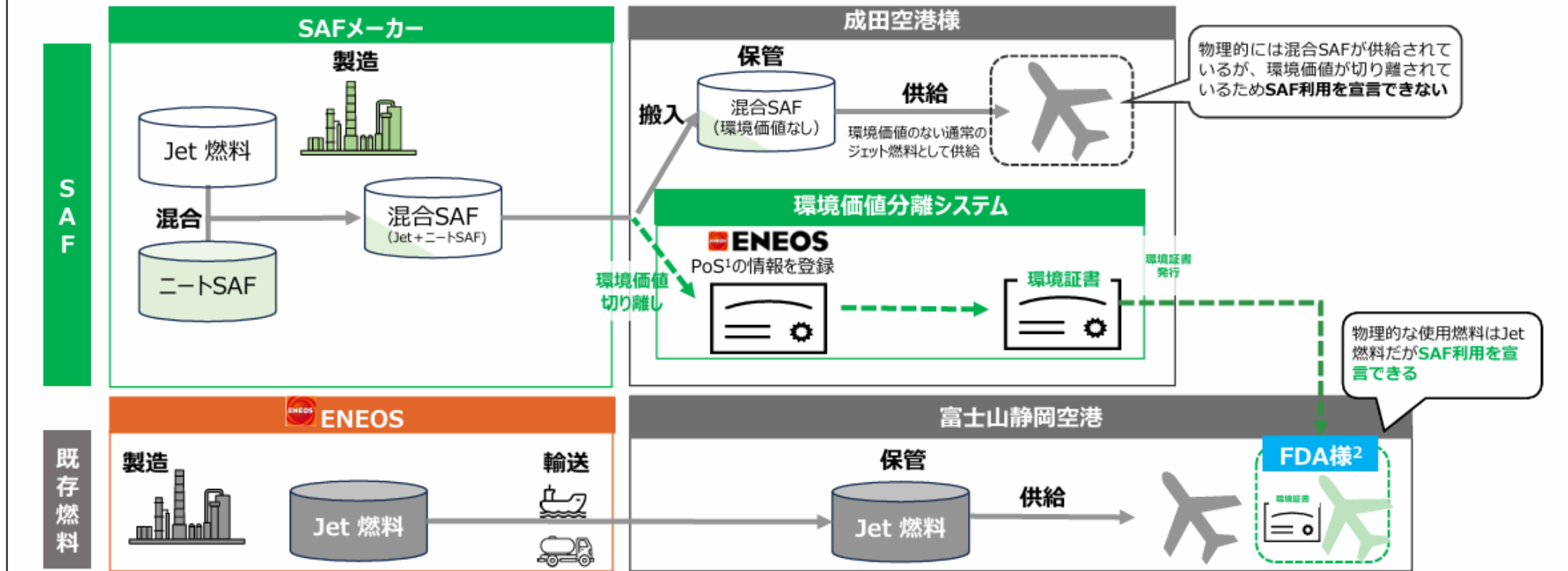


マスバランス方式でもサプライチェーン＝物理的な供給インフラの使用(青字)必要→25年度はさらなるボトルネック解消に向けた実証を実施

参考：ENEOSの環境価値移転実証の取組み

6. 2025年度の実証概要 – よりフレキシビリティの高い供給方式を検証 –

- ・ 欧州制度を参考に物理的な**サプライチェーン外にもSAF（環境価値）を供給**できる柔軟性の高い方式を実証
 - ・ 環境価値システム（レジストリ）を利用し、**環境価値を証書として、より強固にデータのトラッキングが可能な形で顧客に提供**
- SAFの現物をSAF供給地点から離れた空港に運ぶ必要がなくなるため、更なる物流コスト削減が可能



出典：“空のカーボンニュートラル”シンポジウム 弊社講演資料（2026/2/24）